

市報

とす

今号の内容

CONTENTS

うし年生まれ8人の抱負..... 2



市社協が高齢者男性料理教室..... 5

人形作り36年の牟田さん..... 6

思いやり標語入賞者決まる..... 8

日曜日に胃がん・子宮がん検診..... //

ピアノコンクール受賞記念コンサート開催..... 9

県立美術館所蔵品巡回展展示作品..... 11

謹賀新年

1

平成9年 821

1日号

れ大集命



今年「うし(丑)年」。鳥栖市の年男、年女は明治三十四年生まれ、十五人を筆頭に四千七百九十三人(平成八年十二月六日現在)。

最も多いのは昭和二十四年生まれの一千百十三人です。今回はそれぞれの年代のうし年生まれの方々に登場していただき、今年の抱負などを語っていただきました。

明治34年生まれ



酒井経夫さん
(本通町)

昭和二年に高浜虚子先生に会って以来、俳句を本格的に始め、七十年間、句を詠まなかつた日はありません。今でも月二回は真心の園で指導をするほか、昭和三十一年からは主宰する鳥栖ホトトギス会で後進の指導をしています。幼いころから歩いたり、走ったりするのが好きでした。今でも毎日約四⁺の散歩は欠かしません。おかげで足腰は丈夫。一生懸命やって失敗してもよくよ考えないのが長生きの秘けつでしょうか。百歳まで初詣に行きたいです。あつ四年 生きて百才 初詣 祝平成九年・九峰

大正2年生まれ



小田綱雄さん
(布津原町)

写真が趣味で九州や中国地方の石仏を撮り歩いていますが、十年ほど前、腰を悪くしてから書道とカラオケ。毎日午前中は書を一千文字書くのが日課です。カラオケは教室に週一回通っています。歌うのは北島三郎や大川栄策などの曲が多いですね。お腹から声を出して歌うのが健康の秘けつとも言えます。「長生きするのも芸のうち。家に引き込んでばかりじゃダメで、いくつになっても社会とつながりを持ち、人と交わっていく」これが私のモットー。今年もこの気持ちで暮らしていきますよ。

昭和24年生まれ



福山英子さん
(本鳥栖町)

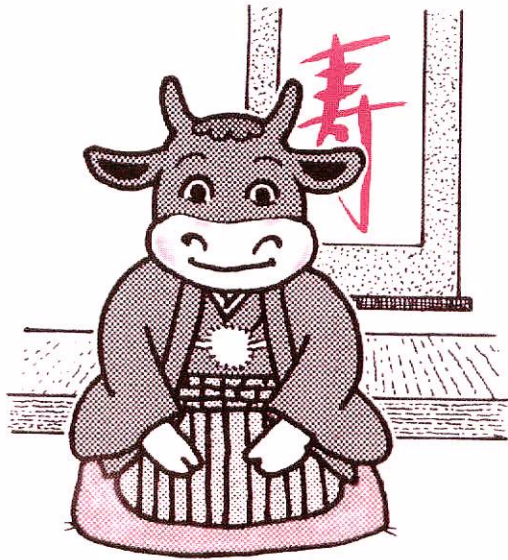
若いころから踊りが好きでこれまでに日本舞踊やリズムダンスなどをしてきました。三、四年前からはレクリエーション・インストラクターの資格をとり、市教育委員会が各地区で開いている若さはつらつ教室の指導に、また体育指導員として市の体育行事にと忙しい毎日でしたが、昨年は病気一つせずにやってきました。今年、若さはつらつ教室でも取り入れているフォークダンスを広めていきたいと思っています。とにかく健康で何事にも頑張っていきたいですね。

昭和36年生まれ



三好文也さん
(山浦町)

二十一歳の時から父の後を継いで酪農の道へ。朝と夕方の二回、搾乳。毎日約二百⁺の牛乳を出荷しています。牛の健康にはかなり気をつけますが、私自身も体重を少し減らそうと、去年一月からスポーツジムに通い始め、約一年で三⁺四⁺減量しました。今年には水泳にも挑戦し、あと三⁺ぐらいは減らすつもりです。都市化が進み、酪農も考えなければいけない時期にきていると思います。これからは若い農業経営者が意欲をもって仕事ができるように、組織づくり・受け皿づくりを行政でも考えてもらいたいですね。



うし 五年生 ま

夫の仕事の関係で九州各地を転々としていましたが、五十歳になって、やっとふるさとに腰を落ち着きました。それから、中学まで習っていた三味線の練習を再開。毎日二時間の練習は欠かさず、準師範の資格も取りました。ほかに謡曲やカラオケ、グ

ラウンドゴルフ、婦人会とほとんど家にはいません。何でも挑戦して、いつも自分が生きているのを体で感じていたんです。人と話をしたり、お世話をするのが好きで、今年も明るさを忘れず、楽しく過ごせれば、私は同じ牛でも乳牛じゃなく、闘牛かしら。

昭和12年生まれ



菅藤勝子さん
(下野町)

小学校教諭を退職後、一年まで市の民生委員や心配ごと相談の相談員をしてきました。第一回から携わる童謡・唱歌を歌う会は去年で十年を迎えました。七十歳目前の平成六年九月、足を骨折。それ以来、リハビリなど病院通いが続きますが、いろんな所

出かけては、多くの人と会話を楽しむよう努めています。ボケ防止も兼ねてお礼などは電話で済ませず自筆の手紙を送ります。また常にお化粧など身だしなみはきちんと。気持ちも若返ります。来年は健康を回復して、すべての面で生涯現役でいたいですね。

大正14年生まれ



江崎俊子さん
(轟木町)

学生時代は陸上部の短距離選手でした。会社に就職して運動をする機会が少なくなつて、体力は落ちる一方。一念発起して昨年からエアロビクスを始めました。体を動かして汗をかくのは気持ちがいいですね。また、友人とよく温泉に行きますが、露天風呂に

入ると、日本人でよかつたなあ、つくづく実感します。今までは「食べたら寝る」まさにうし年生まれの私でしたが、今年頑張つてスリムな牛になりたいと思います。将来、結婚して子供ができれば、親子で一緒にエアロビクスに通いたいですね。

昭和60年生まれ

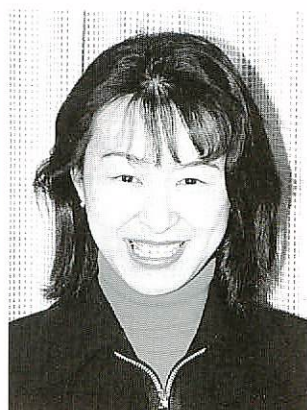


横山創太さん
(田代大官町)

十二年前の二月二十日、生まれてすぐ、聖マリア病院に入院して「みんな心配したとお母さんから聞きました。今では、あまり病気もせず、毎日元気に学校へ通っています。得意教科は社会と算数で、苦手は国語です。今年はいよいよ中学生。新しい友達が増え

ますが、勉強では英語、数学とさらに難しくなり、期待と不安でいっぱいです。特に英語は初めての教科なので楽しみにしています。スポーツは空手を習っていますが、今一級の茶帯なので、今年黒帯をめざしてがんばりたいと思います。

昭和48年生まれ



藤井美絵さん
(鎗田町)

入ると、日本人でよかつたなあ、つくづく実感します。今までは「食べたら寝る」まさにうし年生まれの私でしたが、今年頑張つてスリムな牛になりたいと思います。将来、結婚して子供ができれば、親子で一緒にエアロビクスに通いたいですね。



会場では活発な意見に
メモをとる参加者も

地方分権・広域行政テーマに講演会

「住民、議会、首長の十分な理解必要」

十一月二十六日、サンメツセ鳥栖で「地方分権時代に対応する地域のあり方——広域行政はこの街に何をもちたらずのか」をテーマに講演会が開かれました。

講演会は鳥栖商工会議所が取り組む地方分権広域行政推進研究事業の一つとして開いたもので、鳥栖・三養基・神埼地区の一市六町一村の職員や商工会議所会員など約三百

人が参加。佐賀県財政課長を務めたこともある井戸敏三・兵庫県副知事による基調講演、藤森英二・福島県郡山市長と大矢野栄次・久留米大学教授による対談が行われました。

井戸氏は「今は住民の生活圏が広がり、行政の境界（圏域）と一致していない。広域行政、合併により行政サービ

スもコストダウンでき、サービスの充実も図れるが、この場合はお互いの住民や議会、首長の理解を十分得ることが必要」などと指摘。また、藤森・大矢野両氏の対談でも郡山市の状況を例に挙げながら、これからの鳥栖地域がどうあるべきなのかについて活発な意見が出されました。

小鳩園 育てた綿で座布団作り お年寄りにプレゼント

下野園の園児二十七人が十一月二日、高田町にある老人保健施設「寿夢の郷」を慰問しました。

車椅子のお年寄りなど約八十人の前で園児らは、かわい

らしい衣装を身につけて踊りや歌、劇などを披露したあと、座布団十枚と、牛乳パックで作った小物入れをおじいちゃん、おばあちゃんに手渡ししました。お年寄りらは園児からもらったプレゼントを手に一様に目を細めていました。

下野園では昨年、クッションを作って同施設に贈るなど、交流を続けています。



プレゼントを手渡す園児たち

薬研で生薬をすりつぶす参加者



くすり博物館でお屠蘇教室 生薬の独特の香り楽しむ

無病息災、不老長寿の願いを託して飲む、お正月には欠かせない「お屠蘇」の効能などを知ってもらおうと、中富記念くすり博物館が十二月一日から十五日まで五回にわたって「お屠蘇教室」を開き、合わせて百人余りがお屠蘇づく

りを体験しました。

八日の教室には、約二十人が参加。同館の係員からお屠蘇の由来や原料となる生薬の効能などについて説明を受けたあと、昔ながらの薬研を使って、山椒、防風、桔梗、桂皮など八種類の生薬を手分け

してすりつぶしました。作業中、辺りは生薬独特のいい香りに包まれ、参加者も鼻を生薬に近づけては香りを楽しんでいました。

粉末になった生薬は一つに合わせ、お酒一合分ずつ（約三・八割）煎じ袋に入れてでき上がり。参加者は手作りお屠蘇でお正月の楽しみが一つ

増えたようです。

参加者の一人、布津原町の調フサ子さんは「年末にも薬局で買い求めていましたが、中身が何か全然わからなかったもので、それが知りたくて参加しました。六種類以上の生薬が入っていて驚きました。香りがすごくいいですね」と満足そうに話します。

ふれあいクリスマスパーティー みんなで歌やゲーム楽しむ

恒例となった「ふれあいクリスマスパーティー」が十二月八日、社会福祉会館で開かれました。
障害者の家族でつくる手を

つなぐ親の会のみなさん、市内の小学生を対象に夏休みに開いた「ふれあいスクール」の卒業生など約二百人が参加。健常者と障害者が一緒に歌や

踊り、ゲームなどを楽しみ、会場は笑い声で包まれました。紙で作った直徑二寸もあり



サンタからのプレゼントも

そんな大きなケーキ二個にみんなが協力して飾りつけするゲームでは、最後までいい出し

来上がったクリスマスケーキにみんなの手をたたく喜び。ひと足早いクリスマス満喫しました。
今回のゲームは昨年に続いて九州福祉医療専門学校のボランティアクラブ「トータスクラブ」のメンバー二十六人が企画から準備、進行までを担当。同クラブ部長の小池司

青少年育成研究大会

中学生が老人での体験を発表

「やさしい心になれた」などと述べる田中さん

次代を担う青少年を健やかに育てようと青少年育成研究大会が十一月二十日、中央公民館で開かれました。
この大会は市青少年育成市

全国感想文コンクールで最優秀賞などに輝いた田中理恵さん(鳥栖中三年)と三村小百合さん(同)が真心の園での体験を発表しました。
田中さんは「貴重な体験を通し、お年寄りの前でやさしい心になれた」と述べ、三村さんは「お年寄りに食事の介助をしたがスプーンで運ぶ食事の量や間隔が難しかった。老人ホームでの仕事はやさし

高齢者男性料理教室

腕前上達にひと役

高齢者男性料理教室が十一月二十日、中央公民館調理実習室で開かれました。
教室には六十五歳以上の男性十人が包丁手にエプロン姿で料理に挑戦。真心の園管

理業養土の内田光子さんの指導で、白菜と肉団子の煮物など三品を悪戦苦闘しながら作り上げました。
参加者の一人、鎗田町の平田學さん(66歳)は「妻が病氣

になった時のために少しでも覚えたい」と話します。
今回の料理教室は市社会福祉協議会が高齢化や核家族化などで今後は男性も料理作りが必要になるだろうと開催した。手に入りやすい材料で、男性でも比較的簡単にできる料理を中心に、月一回、三月までに五回の教室を予定しており、同協議会では「途中からの参加もできるので参加したい方は連絡してほしい」と呼びかけています。電話番号は☎3555です。



今からの時代は「男性厨房に入る」

人形作り通して思い出刻む

牟田幸子さん(71歳、曾根崎町)



「できあがった人形を眺めていると心が和みます。人形一つひとつに、いろいろな思い出がありますね」
昭和三十五年、専業主婦で

魅せられ、四十四年には東京にある日本芸術人形協会の師範の資格を取得。近所の人や友人たちを集めて教室も開いています。

「昨年二月、市立図書館で鳥栖高等女学校時代の同級生八人と一緒に、七十歳の古希を記念した初めての能人形九人展を開くことができました」

あんひと こんひと

⑤3

「どれも細かい作業が多く大変。何でもそうですが、根気強くやる

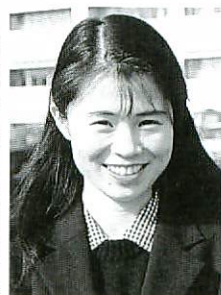
人形といっても、切れ目の入った木彫りの人形に金襴などの布をへらで押し込んで作る「木目込み人形」、針金にわら、綿、包帯を巻いてできた胴体に手縫いの衣装を着せて能楽を舞う姿を表現した「能人形」などさまざま。能人形作

ことが大切です」
今年、年女の牟田さん。師走には親類や知人にあげるため、今年の干支である「うし」の木目込み人形を製作。丹精込めて作られた人形が、また一つどこかの家庭で新年を迎えています。

市役所 ままご

④5 総務部総務課職員係

白水 綾子



職員係では、職員の給与や人事、公務中の災害補償、福利厚生など職員が安心して働ける職場環境の整備をはじめ、各種の職員研修による人材育成、職員の新規採用に関する仕事などを担当。これからの職員一人ひとりが、市民の方々により良いサービスを提供できるような職場づくりに努めています。



オランダのトマト農園で陶山さん

農業 新時代

①68

「欧州視察、栽培技術は日本が上。環境保全など見習う点も」

幸津町の陶山了子さん(56歳)は県の委嘱を受けた農業生活指導士として、全国から参加した農業者十三人とともに、九月三十日から十五日間の日程でヨーロッパ五か国を視察。現地の農業・農村の現

状などを見聞してきました。「ヨーロッパを回って、どこまでも続く緑の田園風景に感動しました。荒れた農地はなく、道端にも空き缶などのゴミは全く落ちていません。環境保全という言葉をみんな

が口にし、農業の使用規制も厳しいようです。行政による指導も含めて、日本でも見習うべき点ですね」
ドイツでは民宿を営む農家に二泊し、生の農家生活を体験。家族と食事をともにし、夜遅くまで語り合いました。「部屋の中は薄暗く、食事も意外に質素。何事にも無駄が少ないことが、むしろ生活に余裕を与えているようです」
ヨーロッパの農業は、反収

が減っても経営面積の拡大でそれを補う大規模粗放経営が主流。牛は放牧地一帯に二頭の割合で飼われ、イギリスでは一経営体当たりの平均経営面積は約八十haにもなります。「狭い土地から少しでも利益を生もうとする日本の方が栽培技術的には進んでいるようです。経営感覚や考え方が全く違いますが、よそを知ることで自分たちの良い所も見えてきますね」

「人と人とを結ぶ思いやり標語」 市長賞に秋山さん(麓小)、濱津さん(鳥栖中)



秋山祐子さん



濱津樹理さん

市教育委員会が十月から十一月にかけて、市内小中学校を通じて募集した「人と人とを結ぶ思いやり標語」の入賞作品がこのほど決まりました。最高賞の市長賞には麓小学校四年・秋山祐子さんの作品『泣かないで わたしが聞いてあげるから』と鳥栖中学校一年・濱津樹理さんの作品『心のアスファルト あなたの一音で 芽が生える』が選ばれました。

今回の標語募集は、子供たちが思いやりの心をテーマに標語を考えることで、人を思いやるやさしい心を育み、いじめのないより良い仲間づくりをしていくきっかけにして、昨年におうと企画したもので、昨年に続き二回目。小学生千四百四十三名、中学生千二百三十八名の合わせて二千六百八十一名の応募をいただきました。

ありがとうございます。なお、そのほかの入賞者は次のみなさんです(敬称略)。
〔市議会議長賞〕松本まりも(田代小六年)▽古賀麻美(鳥栖西中一年)

〔教育長賞〕溝江芳彰(若葉小四年)▽小林大輔(鳥栖西中一年)
〔入選〕及川和美(鳥栖北小四年)▽山本美樹(田代小五年)▽荒木千衣(基里小五年)▽村山幸(同六年)▽松隈朋美(麓小六年)▽酒井馨一(基里中一年)▽牛島安由美(鳥栖西中一年)▽岩屋崇(同一年)▽古澤小百合(同一年)▽明吉智美(鳥栖中三年)

募集

県営住宅入居者

県住宅供給公社では、今月完成する前田町の県営住宅旭団地の入居者を募集します。募集戸数は一種住宅十一戸、二種住宅十二戸の計二十三戸。間取りは3LDKで入居予定日は三月一日です。入居を希望する方は、一月二十日から同二十四日までに入居申込書に必要書類を添えて鳥栖土木事務所建築課へ提

団地名	種別	空家戸数
萱方	1種	1
鳥栖南部	"	9
宿町	"	12
宿町	2種	3
石貝	1種	1
本桜	"	5

出してください。入居申込書は今日六日から同課で配布します。また、既設の県営住宅の入居申し込みも鳥栖土木事務所建築課(☎4176)で随時受け付けています。昨年十一月末現在の空き家状況は次の表のとおりです。

鳥栖の町づくりと歴史・文化講座参加者

肥前地方の戦国の城・巡検。今回は北波多村の波多城や岸岳城など佐賀県西部に残る戦国の城を訪ねます。とき 一月十九日(日)午前八時半
ところ 市役所前出発
参加料 五千元(バス代、昼食代、資料代を含む)
定員 三十人(定員になり次第締め切ります)
申し込み 鳥栖歴史研究会・内野武史(市教育委員会社会教育課内☎3695)へ。
なお、当日は動きやすい服装で参加してください。

県政モニター

県の施策や行政運営等について意見、要望などを寄せていただく県政モニター(県内で四十九人)を募集します。応募資格 二十歳以上の県民の方。ただし、平成六年度以降の県政モニター経験者や公務員、議員は応募できません。
申し込み はがきに①住所②氏名③年齢④性別⑤職業⑥電話番号⑦応募の動機を記入し、一月十日から二月十日までに県庁県政情報室(県庁専用郵便番号7840-70☎0952☎7009)へ

胃がん検診を 日曜日に実施

市では、平日仕事で検診を受けられない方や今年度(昨年四月から現在まで)に都合で検診を受けられなかった方のために、一月二十六日の日曜日に胃がん検診と子宮がん検診を保健センターで実施します。

受診希望の方は保健センター(☎3650)まで申し込んでください。自覚症状がないからといって安心しないで、一年に一度は検診を受けましょう。

■胃がん検診(先着百人)
対象者 四十歳以上の男女
とき 午前九時~十時半
料金 八百円

■子宮がん検診(先着百五十人)
対象者 三十歳以上の女性
とき 午前十時~十時半
料金 五百円

大腸がん検診 各地区ごとに説明会

大腸がんは最近、日本のがんの中でも不気味が増え続けています。なぜ増えているのか、はつきりとは分かっていませんが、生活環境の変化、特に食生活の欧米化(高脂肪・高タンパク)が原因ではないかと考えられ、克服のためには早期発見が重要になっていきます。

そこで市では、四十歳以上の方を対象に、大腸がんを早期に発見するための便潜血検査を実施します。料金は四百円(七十歳以上の方は無料)です。なお、検査は精度をよくするために二日分の便で検査します。

次の表の日程で検査容器的配布と検査方法について説明会を開きますので、最寄りの会場においでください。また、当日は保健センターから対象者の方に郵送したハガキを必ずお持ちください。

地区	と	と	ところ
旭地区	1月20日(日) 9:00~11:00		旭公民館
田代地区	" 13:30~15:00		田代公民館
麓地区	1月21日(日) 9:00~11:00		麓公民館
鳥栖地区	" 13:30~15:00		鳥栖公民館
鳥栖北地区	1月22日(日) 9:00~11:00		保健センター
基里地区	" 13:30~15:00		基里公民館

福祉

児童に関する特別巡回相談

県中央児童相談所では、養護・心身障害・非行・育て方など児童に関する特別巡回相談を行います。なお、事前に申し込みが必要です。
とき 一月二十一日(火)午前十時～午後三時
ところ 社会福祉会館
申し込み 福祉事務所社会係
(☎3552)へ

社協が低所得世帯に修学資金を融資

市社会福祉協議会では、低所得の一般世帯で、お子さんが高校、大学などに進学される場合の修学資金の融資申し込みを一月二十日まで受け付けています。詳しくは同協議会(☎3555)へ。

母子家庭等に就学資金、就学支度資金を融資

県では、母子家庭等でお子さんが高校や大学などに入学または在学する場合に就学資金などを融資しています。

パパ撮っし



樋口雅士さん千里さんの長男
創いち一くくん
(2歳2か月・曾根崎町)

●ママからひと言
わんぱくでもいい、たくましく育ってね!

放送大学福岡地域学習センター学生を募集

広く社会人などに大学教育の機会を提供する放送大学福岡地域学習センターでは、来年度第1学期(4月入学)の学生を募集します。学生の種類は、1年間にわたって学習する選科履修生と半年間学習する科目履修生。応募資格は18歳以上の方(今年4月1日現在)で、福岡地域学習センターでビデオテープ、オーディオテープを視聴できる方。入学願書の受け付けは2月15日まで。募集要項や体験入学などの問い合わせは同センター(福岡市東区箱崎・九州大学内☎092-651-4952)へ。

新春経済講演会

1月23日(木)午後2時、鳥栖商工会議所3階ホール。テーマは「今年の景気——今後の景気推移を見るためのポイント」。講師は日本経済センター主任研究員・金子雄一氏。受講無料。申し込みは鳥栖商工会議所中小企業相談所(☎3121 F A X ☎8888)へ。

登山「新春登山」

1月19日(日)午前7時、市役所出発。九重黒岩山(1502.6m)に登ります。会費は大人4,000円、子供2,500円。申し込みは市山岳連盟・西依政雄(市水道課☎3539)へ。

市民スキー教室

2月2日(日)午前6時45分、市役所前集合。天山ハイランドスキー場にバスで行きます。参加料大人3,500円、小学生以下2,500円(バス代・保険料)でスキー場利用料、レンタル料は自己負担。定員40人で定員になり次第締め切ります。初めての方も歓迎。指導員がいてねいな指導を行います。申し込みは市スキー連盟・西城戸芳光(市市民課☎3580)または高尾浩伸(市税務課☎3588)へ。

融資を希望される方は、市福祉事務所社会係で手続きをしてください。提出書類など詳しくは同係(☎3552)へお尋ねください。申請の受付期間は次のとおりです。

■就学支度資金 一月十三日から同二十四日まで(二次募集)▽同二十五日から二月十四日まで(二次募集)

■就学資金 一月十三日から二月二十八日まで

水道の責任技術者・配管技術者試験と講習会を実施

給水装置の工事は、水道事業管理者が認めた水道工事店で行わなければならない。この指定水道工事店になるためには、責任技術者や配管技術者を置くなどの資格要件が必要だ。

六日午後三時までに、責任技術者は同二十九日午後三時までに同課業務係(☎3538)へお申し込みください。

市水道課では水道の責任技術者・配管技術者の試験と講習会を次のとおり実施します。受験希望者は、水道課備え付けの申込用紙に必要事項を記入し、受験手数料千円と講習会受講手数料(配管技術者千円、責任技術者二千円)を添えて、配管技術者は一月十

講習会 一月二十日(月)午前九時、市役所別館男子教養室▽実技試験 一月二十三日(木)午後一時半、市浄水場(原古賀町)

鳥栖こどもピアノコンクール 受賞記念コンサート

昨年十月に行われた「鳥栖こどもピアノコンクール」でグランプリになった栗山みなみさん(有田中部小五年)をはじめ、各賞に輝いた園児と小中高生二十七人が出演する「受賞記念コンサート」を次のとおり開きます。

コンサートでは、受賞者と九州で唯一のプロオーケストラである九州交響楽団弦楽器奏者で結成した福岡室内合奏団が共演します。

とき 二月八日(土)午後三時～(第一部)園児・小学生▽午後六時～(第二部)中高生

ところ 市民文化会館

入場料 前売り千円(当日千二百円)

問い合わせ 鳥栖こどもピアノコンクール実行委員会・鈴木まさ子(布津原町☎7062)

ごみ増加注意報

今年度に入って、家庭や事業所から出されるごみの量が急増しています。1人ひとりがごみを減らすように心がけましょう

11月のごみの量

■可燃ごみ	1,425,430kg (+100,970kg/+7.62%)
■不燃ごみ	149,320kg (-3,170kg/-2.08%)

※()内は前年同月との比較

いけいけ! フューチャーズ



12月1日、鳥栖スタジアムで開かれた存続を求める決起集会には、サポーター300人がつめかけた

市民の皆さんもすでにご存じの通り、鳥栖フューチャーズは、運営会社社長の辞任で存続の危機に立たされました。このニュースは、全国のサッカーファンに衝撃を与えています。パソコン通信の「ニフティ・サーブ」やインターネットでも「チームをつぶしてはならない」と、さまざまな意見が出されています。

ニフティの電子掲示板に、東京在住のハンドルネーム（通信での愛称）「小僧」さんから、次のような感動的なご意見が寄せられました。本人の了解を取って、一部を掲載します。

「東京に住んでいます、鳥栖フューチャーズの存続を強く望んでおります。

素晴らしいですね、あのスタジアムは。街の財産ですよ。

みんなの熱意が作り上げたスタジアムなんだから、中身（チーム）と一緒に、大事にしてほしい。まだ弱々しいけれどせっかく芽生えはじめているものを、そう簡単に断ち切ってほしくない。サッカーファンのため、とか、そういう視点で捉えてほしくない。

街に新たに生まれた子供。はじめは手がかかるし、金もかかるけど、でも、みんなちよつとずつ気にかけてくれるようになって、みんなで大事に育てて、時には街の話題を独占し、時には厳しく叱りつけられて……そんな対象を持つてる街って、どんなに幸せなことか。世界にはそんな街がゴマンとあります。日本にはまだほとんどありません。

鳥栖さん、そんな街になってみませんか？ 時間をかけて……」

23 パソコン通信でも存続の声相次ぐ

中世山城と筑紫氏

Vol.55 八女時代 その十五

慶長五年（一六〇〇）秀吉の死後、全国の諸大名は、石田三成を中心とする西軍と徳川家康を中心とする東軍に分かれ、岐阜県関ヶ原で激突します。後に天下分け目の関ヶ原といわれる戦いで、筑紫家は西軍に属し出兵します。

筑紫氏は柳川の立花宗茂と行動を共にし、東軍の京極高次の籠もる大津城攻めに加わります。この大津城攻めについて、筑紫家に残る記録では次のようなことが記されています。

まず、味方の軍勢ですが、大将

毛利輝元の軍代毛利元康、小早川秀包などの中国毛利勢、増田右衛門尉、片桐主膳正、松浦伊予守などの大阪旗本衆、桑山修理亮、多賀出雲守、松倉豊後などの大和衆、立花左近、筑紫主水、伊藤民部大輔などの九州勢で、総勢一万五千人の人数で攻めたとしています。

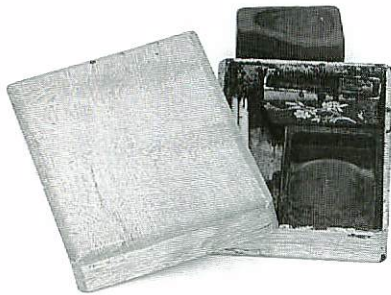
また、西軍の猛攻により残りは本丸だけになったとき、秀吉の正婦人政所様、秀頼の母淀君の仲介で、京極高次は城を明け渡し、高野山に誓居することで城を受け取ったが、そのうち関ヶ原で西軍が



関ヶ原合戦図屏風（学研・歴史群像シリーズ4より）

敗北したことによって、それぞれ領国へ帰ったと書かれています。これが関ヶ原合戦における筑紫家の動向ですが、このことにより後に家康の咎めを受け、上妻一万八千石を改易され、大名としての筑紫家は廃絶します。

「硯箱」はその名のとおり、墨をするための硯を入れる箱ですが、ほかに水滴（水入れ）・筆・墨・



昔は蒔絵や螺鈿で装飾されたものも多く見られた硯箱

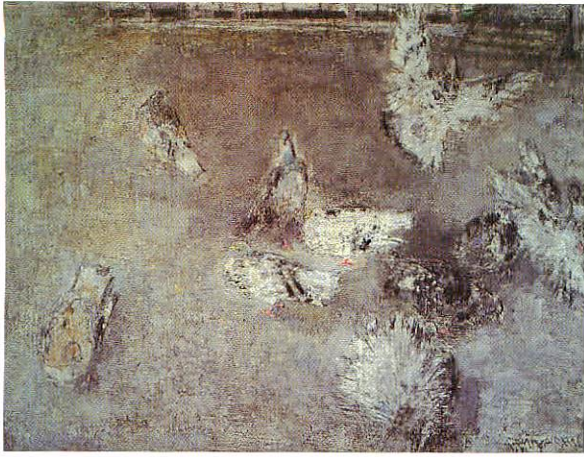
小刀・鎌など、文書を書く際に必要な道具をしまうためのものです。手箱（手まわりの小道具入れ）などと同じく平安時代後期に考案され、工夫されたものと考えられています。昔は文書を作ることなどは貴重で限られた行為でしたので、硯箱も丁重なものと考えられ、蓋には漆が塗られたり、中には蒔絵や螺鈿などで飾られたものも多く見られます。蒔絵や螺鈿を施された硯箱・文箱などは日本を代表す

る工芸品としても有名です。このように、きれいに飾られているため、昔は花・果物・肴などをのせて、祝祭時のお膳にもしました。それが発達して、祝儀の時などに食べたり飲んだりするものを盛って「すずりぶた」と言う場合もあります。

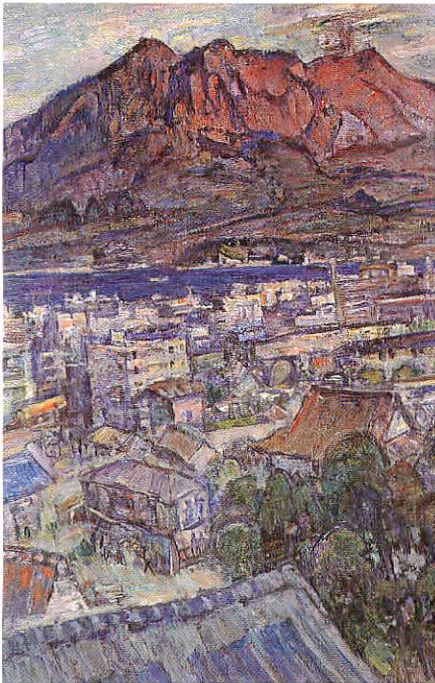
なお、硯箱の一種で、三段の引き出しに硯や筆などを分けて入れる「柑硯」は九月一日号の筆筒の項で紹介したとおりです。

消えゆく民具 【生活用具編】

VOL.83 ● 硯箱



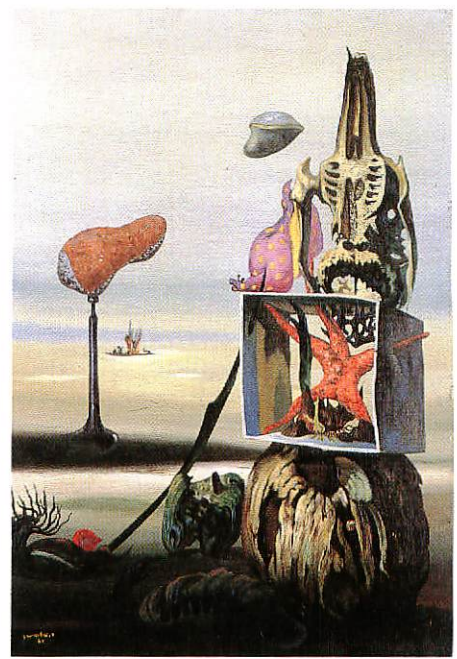
「雨後」宮地 亨



「午後の桜島」石本 秀雄

佐賀県出身画家二十人、三十二点の作品を展示した県立美術館所蔵品巡回展「冬の美術館—昭和・平成を綴る佐賀の洋画家たち」が十二月六日から十五日までの十日間、市立図書館で開かれました。巡回展は県民のみなさんに県立美術館が収蔵する作品をより深く知ってもらおうと同時

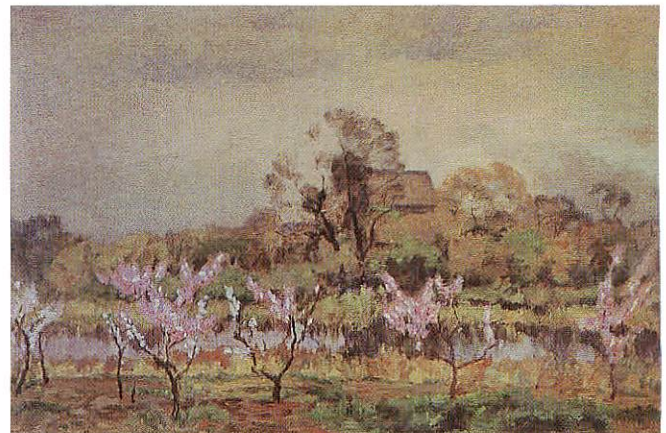
冬の美術館



「すたれもの」古沢 岩美

県立美術館所蔵品巡回展

昭和・平成を綴る佐賀の洋画家たち



「桃咲く頃」山口 亮一

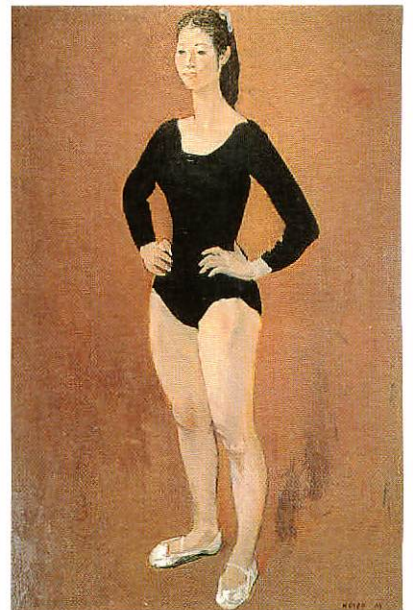


「はがくれの里」深川 善次

に、美術作品の多様性、鑑賞の楽しさを味わってもらおうと、平成六年から毎年二回、県内各地で開催しているもので、今回が五回目です。作品の中には、鳥栖市出身でシュールレアリスム（超現実主義）の巨匠・古沢岩美氏の本県初公開作品をはじめ、

「レッスン」村岡 平蔵
明治天皇の肖像画を描いた高木背水氏、県美術協会の創設者・山口亮一氏、戦後の県美術界をリードした石本秀雄氏などの貴重な作品も数多く展示されました。

そこで、今回展示された作品をいくつか紙面で紹介しますので、ご鑑賞ください。





■市の花「ハナシヨウブ」

水辺に栽培される日本独自の園芸植物。色、形とも豊富で、水や雨の情緒がよく似合う诗情豊かなその風情は、心を和ませます。
昭和59年4月1日制定。



■市の木「モチノキ」
(クロガネモチ)

雌木には秋から冬にかけて多数の赤い実がなり、艶やかな深緑色の葉の間から青空にひときわ鮮やかに照り映えます。
昭和48年4月1日制定。



■市の鳥「メジロ」

スズメより小さく、体は黄緑色で目のまわりが白く、低い山地や平地の林などに生息。家の庭先や垣根などで見かけることができ、昔から市民に親しまれています。
平成6年5月1日制定。

人 口	平成8年12月1日現在		()内は前月比
総 数	男	女	世帯数
57,162(+7)	27,443(+2)	29,719(+5)	18,495(+16)

1月の納税

市 県 民 税(4期分) 納期限●1月31日
国民健康保険税(8期分)

水道の修繕

鳥栖市管工事協同組合 ☎84-2500
●水道の修繕はすべて上記へお申し込みください

■編集・発行/鳥栖市総務部企画課広報統計係
〒841 佐賀県鳥栖市宿町1118番地 ☎ ☎3513
FAX ☎1994